

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 史学科・助手

申請者氏名 青木 学

研究課題		戦時下における堀内敬三の音楽論の検討
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は戦前、戦後に活躍した音楽評論家である堀内敬三の音楽論の変遷について検討する。令和2年度は堀内の音楽評論家としての側面に焦点をあて検討を行った。しかし、堀内は評論家のみならず、音楽之友社の社長という経営者という側面も持ち合わせていた。本研究では、堀内の経営者としての側面に着目し、戦時下の出版統制下において音楽雑誌を出版する経営者としてどのような選択をしていたかを考察する。また、戦時下においていくつかの音楽雑誌が統合される際、堀内は情報局から通達があったと述懐している。それを考慮すると、戦時下の堀内の発言が外的な影響を多分に含んだ発言であったのではなかったかを調査することで新たな堀内像を検討する。
	研究の結果	戦時下における出版文化は、政府の国策宣伝、戦争への協力を強いられ、制約の範囲内での出版であった。政府が雑誌の数を減らす方針を立てたことで、その結果、芸能雑誌も全体として用紙の割当が制限される。この事実をふまえると、音楽の刊行物を出版する社長としては、政府の決定した方針はかなりの痛手であったに違いない。出版内容で用紙の割当が左右されると仮定すれば、戦時的な内容で編纂するは戦時下の一経営者としてはやむを得ない判断であったと考えられる。
	研究の考察・反省	上記の結果は、仮定にすぎず、根拠となる史料が未だ不十分である。今後も引き続き堀内に関する史料を調査し、研究目的を遂行できるよう努めたい。また、堀内の戦時下における発言についても、調査が及ばなかった。戦前だけでなく、戦後の発言も視野に入れ、調査を行うにしたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	【研究成果物】 所属する洋楽文化史研究会が刊行する書籍に掲載する論文が掲載決定となった。テーマは「戦前昭和期における堀内敬三の音楽論の変遷—ジャズ・流行歌を中心に—」となり、研究課題に即したものとなる。2023年刊行予定。。